

みんなの力が

生きがいに満ちた生活は
世代を越えた交流から

平成10年9月にオープンした但馬長寿の郷は地域の人々とともに、多様な交流・生きがい創造事業を企画実施し、但馬地域だけでなく、全国的に取り進むことによつて「生きがい」に満ちた但馬づくり」を積極的に推進しています。

まごころクラブのトレードマーク。
この帽子を見かけたら、気軽に声をかけてください。



「何かお手伝いしたいのだけれど、どうすればいいんでしょうか？」という声が多数あがり、平成11年3月に長寿の郷応援団「まごころクラブ」が発足しました。会員の皆さんが自分たちで考えた名前です。代表者や規則などはありません。それぞれの会員ができることを、自分の

「会社に勤めながらも苦にならないです。今日は長寿の郷に行く日だと思つて早く行かなきゃとウキウキしますよ。私でも何かお手伝いできることがないかな」という軽い気持ちだつたんですが、普段の生活では

「定年退職して、何かできることがないかなと思つて…。陶芸や木工を勉強しながら、障害者の皆さんの作品づくりのお手伝いをしています。作品ができた時、たいへん感激してもらつた、こっちもうれしくなりますよ。私も陶芸や木工で作品をつくつて、自身が一番楽しんでるかも知れません」とまごころクラブの皆さんの声。たくさんさんのボランティアの力によつ



花壇の整備や棚田で米や野菜を作ったり、指導もします。



陶芸や木工の指導、お手伝い。やったことがなくても研修を受け、できるようになります。



ふるさと庵ではお茶のふるまいをしたり、イベントのお手伝いもします。



但馬長寿の郷は誰でも気軽に利用できる施設です。サークル活動や各種会議、コンサート、個展など幅広く活用できます。また、送迎バスであなたの町まで迎えに行きます。近くには全天候運動場や天文館、プールなどの各施設がありますので、あわせてご利用ください。



て、但馬長寿の郷は支えられています。但馬長寿の郷は「すこやかからんど」「ふれあいらんど」「やすらぎらんど」の3つのエリアからなっています。「すこやかからんど」はすこやかセンター、郷ホール、介護実習室、視聴覚室、レストラン、ギャラリー、事務所棟などがあり、リハビリ、住宅改修の相談や福祉用具の使い方など、住民の皆さんが積極的に取り入れるお手伝いや、保健医療福祉の専門的な人材育成、健康づくりを学ぶ施設。各種会議・研修などにも利用できます。

音楽堂、ファームガーデン、果樹園、棚田などがあり、都市と農山村との交流、世代を越えた交流や情報の提供。音楽・陶芸・木工・農業体験など生きがいづくりの場として利用できます。「やすらぎらんど」は、ホテル形式の宿泊棟とロッジがあり、里山の豊かな自然の中でゆっくりとくつろげます。但馬長寿の郷は誰でも気軽に利用できる施設で、季節ごとに美しい風景が楽しめます。私にも何かできるかな…と思つている方、まごころクラブで皆さんといっしょに楽しみながらボランティアアシマしよう。

コウノトリを野生へ まず身近な自然を知ろう

平成11年11月、コウノトリの郷公園の一部がオープンし、世界で初めてコウノトリを自然に帰す活動が始まりました。飼育されている特別天然記念物コウノトリの数は、現在66羽。

①コウノトリの種の保存と遺伝的管理
②野生化に向けての科学的研究及び実験的試み
③人と自然の共生できる地域環境の

創造に向けての普及啓発
この3つを基本機能として、コウノトリを野生に帰すための研究を多方面から進めています。広大な敷地には、湿地のピオトープやモリアオガエルの森、カブト虫の森、キノコの森などさまざまな自然観察・学習ゾーンがあり、平成12年6月には豊岡市立コウノトリ文化館 仮称がオープンします。

このような動きの中で、コウノトリが住む町をつくるために、まず私たちの住んでいる豊岡市の自然を知ることから始めようと、コウノトリ市民研究所が平成10年5月に発足しました。会員は現在30名。タンポポ・メダカ・ゲンゴウ・タガメ・アカトンボ調査やピオトープの創出と、生物調査などをおこなってきました。調査に入る時は新聞などで告知をしているので、誰でも参加できます。

「自然を知らなければ、コウノトリとの共生は語れません。実際にその場に行つて、観てみないとわからないこともいっぱいあるんです。コウノトリを野生に帰すためには、そこに住んでいる私たちが主人公であることを忘れてはいけません。コウノトリといつしよに暮らそうと思うかどうかは、私たちの判断なのですから…。」

「自然を知らなければ、コウノトリとの共生は語れません。実際にその場に行つて、観てみないとわからないこともいっぱいあるんです。コウノトリを野生に帰すためには、そこに住んでいる私たちが主人公であることを忘れてはいけません。コウノトリといつしよに暮らそうと思うかどうかは、私たちの判断なのですから…。」

「自然を知らなければ、コウノトリとの共生は語れません。実際にその場に行つて、観てみないとわからないこともいっぱいあるんです。コウノトリを野生に帰すためには、そこに住んでいる私たちが主人公であることを忘れてはいけません。コウノトリといつしよに暮らそうと思うかどうかは、私たちの判断なのですから…。」

「自然を知らなければ、コウノトリとの共生は語れません。実際にその場に行つて、観てみないとわからないこともいっぱいあるんです。コウノトリを野生に帰すためには、そこに住んでいる私たちが主人公であることを忘れてはいけません。コウノトリといつしよに暮らそうと思うかどうかは、私たちの判断なのですから…。」



特別天然記念物コウノトリ。コウノトリを飼育している施設は全国で16カ所あります。しかし、野生に帰そうと研究室も備えた施設は世界で初めてです。



つかまえた生き物たちは、大切な研究材料。ひとつひとつついでに名前を覚えてもらったりします。



アカトンボ調査。みんな一生懸命がんばりました。



コウノトリと共生できる環境づくりに取り組んでいます。



自分たちでつくっているピオトープの整備をし、どんな生物・植物が育つか研究しています。

●兵庫県立但馬長寿の郷
〒667-0044 兵庫県養父郡八鹿町国木594-10
TEL0796(62)8456 FAX0796(62)8459
開館時間/9:00~21:00 休館日/12月28日~1月4日 入館無料(施設使用料は別途)

●長寿の郷応援団「まごころクラブ」
(問)但馬長寿の郷 TEL0796(62)8456

●兵庫県立コウノトリの郷公園
〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128番地
TEL0796(23)5666 FAX0796(23)6538
開園時間/9:00~17:00 休園日/毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日/入園料 無料

●コウノトリ市民研究所
(問)豊岡市役所コウノトリの郷公園推進室 TEL0796(23)1111

明

日

元気印9
のまちたち
The town is in high spirits

を

支

え

る